

第1章

ひとりで暮らす要介護高齢者

—16人のプロフィール—

津止 正敏

今回の調査研究に至る経緯については序章において簡単に記してきた。単身高齢者のうち実に4人に1人が要介護認定者であること、あるいは要介護認定者のうちこれも4人に1人が単身高齢者であることが政府の調査でも、私たちが行った京都市山科区の調査でも明らかになった。一体どのような「介護サービスを利用しながらひとりで暮らす」生活の実態があるのだろうか。どのように介護サービスは機能しているのだろうか、子どもたちや兄弟姉妹との関係はどのようになっているのだろうか、「家族と暮らす」「ひとりで暮らす」という暮らし方のその先には「みんなと暮らす」「一緒に暮らす」という新しい暮らし方を見せてこないのだろうか、みんなと暮らす、一緒にくらすという暮らし方の今日性、積極性はどこにあるのだろうか。高齢期の主流となったひとり暮らしという暮らし方を巡って、そこから派生する生活課題をこの社会が抱える新たな問題として構築することも、家族や地域、まちづくり、商品、所得、就労など多様なテーマとも接続することによって高齢者生活、市民生活全体をも射程に収めることも可能となるのではないか。こうしたことが今回の私たちの調査研究の主要な動機になった。

なお、本調査研究は、京都市山科区社会福祉協議会と立命館大学人間科学研究科コミュニティプロジェクト（津止研究室）の共同研究として行った。

1 16人のインタビュー

私たちはすでに山科区の単身高齢者に対する全数アンケート調査を実施していたために、同区における単身高齢者の生活実態の大まかな傾向については把握していた。その概要は本報告書の序章にて記している通りである。そのため、今回の調査研究は、単身高齢者を焦点化しながら、先の調査では殆

ど触れることが出来なかった介護サービスを利用してひとりで暮らす高齢者の個別の生活課題や生活スタイルを明らかにしていくことにあった。アンケート調査の限界を補強しつつこれからの地域での支援活動や支援政策の検討に資することにあった。そのために本調査は、介護サービスを利用しながらひとりで暮らす高齢者を対象として、その暮らしの実態をインタビューによって聞き取るという調査手法を採用した。以下その調査に当たったの調査対象者の選定や調査日程、調査員、インタビュー項目の設定、などについて簡単に記しておく。

(1) 調査対象者

調査対象者は先の調査目的（介護サービスを利用してひとりで暮らす高齢者の個別の生活課題や生活スタイルを明らかにしていくこと）から、具体的

表1 インタビュー協力者

	年齢	性別	単身 期間(年)	単身 経緯	介護度	利用サービス
A	81歳	女性	28	離別	支2	DS
B	88歳	女性	25	死別	介3	DS HHS
C	82歳	女性	23	死別	介2	DS HHS DFS
D	81歳	女性	—	NA	介1	DS HHS
E	91歳	女性	30	死別	支2	DS HHS DFS
F	82歳	女性	20	NA	介2	DS
G	86歳	女性	33	死別	介1	DS HHS DFS
H	82歳	女性	17	死別	介1	DS HHS
I	55歳	男性	NA	NA	介2	DS HHS
J	84歳	女性	12	死別	介2	DS HHS DFS
K	78歳	女性	15	死別	介1	DS HHS
L	87歳	女性	27	死別	支2	DS HHS
M	91歳	女性	18	死別	支2	DS
N	70歳	男性	25	死別	介3	DS HHS
O	92歳	男性	NA	NA	介4	DS HHS
P	69歳	女性	5～6	死別	介2	DS HHS

DS：デイサービス、HHS：ホームヘルプサービス、DFS：配食サービス

な介護サービスを利用している単身高齢者として設定した。調査主体である山科区社会福祉協議会との連携が可能なAデイサービスセンターの利用者で、なおかつ本調査への協力を承諾した単身高齢者を対象とした。その結果表1に一覧にしたような、要支援2から要介護4までの男性3人、女性13人の計16人である。平均年齢は81.2歳。13人がデイサービスセンターから3人が居宅介護事業者（ホームヘルパー）から紹介された利用者である（もちろんデイサービスセンター利用者の中にもホームヘルプサービス利用者がある。ここでは第1義的紹介者がどこかということで整理した）。40人以上のインタビューを実施するというのも当初計画されたが、調査日程や対象者の設定の課題も大きいことから上記の規模に修正した。

（2）調査日程、調査員

このインタビュー調査は、2008年9月1日から29日までおよそ1ヶ月に亘って行われた。調査員は、本学教員1人、大学院生2人、学部生7人および社会福祉協議会職員1人の計11人である。ICレコーダーに収めたインタビューを活字にデータ化する作業にはさらに2人の学部生が参加した。また、調査員の学習を兼ねた事前の協議、研修は2008年7月から8月にかけて随時開催してきた。ゼミ生（4回生）を中心としてその友人知人を頼って調査員の募集を行い、山科区社会福祉協議会を通して対象者把握に努めてきた結果、同区内のAデイサービスセンターが調査趣旨を理解され、対象者への調査協力の依頼などの労をとって頂いた。Aデイサービスセンターの職員も交え、デイサービスセンターのプログラムや単身高齢者の利用実態、利用に至る経緯などについて学習し、この調査研究の趣旨共有化を図ってきた。そして、9月からおよそ1ヶ月かけてインタビュー調査を行うことを確認した。

（3）インタビュー項目

複数メンバーが固定されないチームを組織してのインタビューとなることから、インタビュー項目の設定を行い、共通のインタビューシートを作成しての調査となった。対象となる単身高齢者の自由な語りを基本としつつ、私

たちの調査目的に照らして必要最小限の項目を、表2（インタビューシート）のように設定した。属性、日常生活の様子、若い頃のこと、ひとり暮らしになってからのこと、利用している制度、などを調査委員1人が聞き、他の1人がメモを取り、必ずICレコーダーを使って録音した。インタビューに要した時間は、概ね1時間から1時間半程である。

表2 インタビュー項目

項 目	例 示
属性	氏名、年齢、介護度、健康・家族状況など
日常生活	家事全般(買物、炊事、洗濯、掃除、友人・知人、移動)、困っていること、近隣との付き合いなど
生活暦	出身、幼少時、学校、仕事、結婚、家族など
高齢期の生活	定年、ひとり暮らしになったとき、趣味、楽しみにしていること、新聞・テレビ・ラジオなど
思い出	楽しかったこと、苦しかったことなど
将来のこと	心配なこと、不安なことなど
介護や福祉の制度	利用状況、利用しての感想、改善して欲しいこと、他に必要な支援など
その他	若者へのアドバイスなど

(4) 調査の集計・分析および報告

およそ一ヶ月掛けて行われた16人のインタビュー調査の内容はすべてインタビューシートとICレコーダーに記録された。私たちは、この記録をすべて活字としてデータ化し、分析のための作業を9月以降継続して行ってきた。その分析の一端は、中間報告として、山科区社会福祉協議会が主催した山科区社会福祉大会において「単身高齢者の生活実態から見えてくるもの」と題して報告してきた。本報告書はこのインタビュー調査研究のまとめとして企画したものである。ここでは、データ化されたインタビュー記録をもとにして、16人によって語られた生活の実態を、「日常生活」「生い立ち・生活信条」「家族・友人・社会資源との関係」「制度・サービス」「感情」「将来」などそれぞれの項目によって再構成しながら「介護サービスを利用しながらひとりで暮らす単身高齢者」の生活のリアリティを明らかにしようと試みている。

2 16人の介護と暮らし

—介護サービスを利用するひとり暮らしの実際—

ひとりで暮らす要介護状態にある高齢者の暮らし方とはどのようなものだろうか。その心身の障害は加齢とどのように関係してきたのであろうか。介護保険で提供される介護サービスは、ひとりで暮らす要介護高齢者の生活をどのように支えているのだろうか。また単身高齢者たちはどのような思いで、どのように利用しているのだろうか。どのような条件があれば体の自由が困難になってもひとりで在宅生活が可能となるのだろうか。あるいは在宅生活の限界はどのような状態や環境の組み合わせによって見えてくるのだろうか。以下、介護サービスを利用しながら暮らす、16人の単身高齢者の様子を、私たちのインタビュー結果からその概略を紹介してみよう。

(1) Aさん(81歳)の場合

Aさんは要支援の2、デイサービスセンターを週2回(火、金)利用しているが、そのデイサービスセンターについてのコメントが特に興味深いインタビューになった。子どもは娘3人で、それぞれに仕事を持って京都、大阪方面に住んでいる。子や孫とも密に交流がある。夫とは、彼女が53歳の時に調停離婚している(元夫もすでに死亡)。

1) デイサービスセンターの一日

A：私、ほんまに喋らへんなんだけどね、あの、デイ行くようになってから本当によろしくなりました。いやあ、向こうから喋らはるからねえ。やっぱり喋ってきはるとねえ、それに答えるからねえ。よう喋るようになりました。

Q：女性の方が多いです？

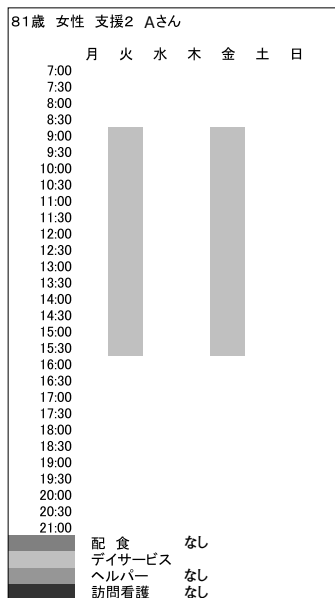
A：もう、おおかた、もう、9分9厘女性、女性。

Q：何人くらいいいはるんですか？

A：130人ほどがそれがだいたい、月曜とか火曜とかぐるぐる。それで1日だいたい30人前後

Q：多いですねえ。

A：こないだ37人でした。あの、少ない時で27人かな。もう30人前後。だいたい来てはります。で、私5年になりますけど、5日休んだだけですな。全然休みません。休まないんです。もう、少々しんどうてもね、向こう行くとしゃんとするの、体が。なん



か、気分的にねえ

Q：おー。

A：ほんでその、しんどいこと忘れてしまっ
ね。もう向こうって、しばらくして、お
風呂は入るでしょ？

Q：はい。

A：そしたらもう、お昼でしょ？それでご飯食
べたら、あの、食後のこういうこと、ね、
コーヒーとか

Q：はい。

A：いろいろなもの出ますねん。

Q：んー。

A：自分の好きなもの。ほんでそれ飲んで、1
時間半、まあ、2時まで自分の好きなこと、
おしゃべりとか

Q：うーん。

A：して、それからなんかゲームとか1時間ぐ
らいますねん。ほうすると、それが3時
くらいになります。

Q：んー。

A：そうすると、3時におやつが出ますんや。
でも、ま、こういうのやったら1つ出ます。

Q：ほうほうほう。

A：それでお茶と。

Q：んー。

A：それで、しゃべったらもう、3時半かそこら。で、帰ります。

Q：はあ。

A：だいたい顔なじみの方が

A：ほお、そうそう。そうやね、もう、座るところがもう、だいたい決まってる

2) デイサービスセンターでの「ボランティア」

Q：んー。なんか他にもっと、デイでも、こうやったらいいのになって思うことあるん
ですか？

A：やっぱ、それは多いやろねえ。やっぱり。もーあの、ねえ、従業員さんのこと考
えとねえ、忙しいわねえ。30人のお風呂入れて、ねえ。もう手足動かへん人、おおかた
でしょ？やっぱり、手と足と悪い人、おおかたやからねえ。

Q：んー。

A：私は内臓やからね、手足はどうもないけど。ほんで、私は洗濯物、たたむ方ばかり
だいたいしてます。洗濯、洗濯

Q：はいはい。

A：洗濯物、もうあっち行ったらだいたいできて、干す

Q：うん。

A：で、乾いたら、畳むと。

Q：うん。

A：そういうのは、私、なん、自然になったんですね。人がしてはったでねえ、

Q：はいはい。

A：その方が急に休まはってね。で一、休まはる前に、ん、畳とんではったからね、お手伝いしましょかー？ゆうて、それで畳とんで。それからなんとなーく。そんなんですから結構、そのためには私は8分は自分のためやと思ってます。2分は向こうのため

Q：はいはい。

A：それはもう、ずっとと思ってます。やから、無理にしてるのとちゃうくて

Q：うん。

A：自然になったもんで、結構なことやなと思って

Q：んー。

A：自分は喜んです、さしてもらって。あれなかったらぼけ一としてるものね。

3) 娘が勧めてくれたー「娘がゆうから、それでまあ行ったんですね。で、娘も心配やから、大阪から、だーっと見に来てくれましてね」

A：そうやで、私はやっぱしデイが1番やね。それは最初ね、もの、あのー娘が、一番下の娘がもう、うつになったときデイ行け行けて1年ほど勧めてくれてましたんで

Q：はいはいはい。

A：それまであのーヘルパーしてましてん、娘が

Q：うーん、はいはい。

A：デイはものすごええとこからいっぺん行ったらってゆうて。そんな、そんなたっくさんいはるところ絶対行かれへんってゆってんけど

Q：うーん

A：もう、ほんまに1年ほど頑張ってたんですね。それでもずっとじーとしててねえ。

Q：うーん。

A：来るたびにじーとしてるでしょ？せやから行けてゆうてるのに

Q：うーん。

A：で、いっぺん行ってみたらええのにつて娘がゆうから、もー。で、ずっと考えててね、いっぺんほな行ってみようかなあってねえ。それでまあ行ったんですね。で、まあ行って、紹介されて、で、娘も心配やから行った、初めて行ったとき、大阪からあの、だーっと見に来てくれましてね。

Q：ふん。

A：でまあね、ちょうどお昼ご飯の時に、であの、まあ、元気にしてご飯食べてたから安心して帰りましたけど。で、行って2、3回行ったら、ああええとこやなってね。

Q：んふふふふ。

A：あはははは。ああ、こら来て、これやったらもっとはよ来たらよかったなあと思てね。やーやっぱり娘勧めてくれたのに、ほんまえらいことしたなあと思てね。悪かったなあと思てねえ、娘にねえ。前、あの、どやったー？って。よかったよーってゆうて。

Q：うーん。

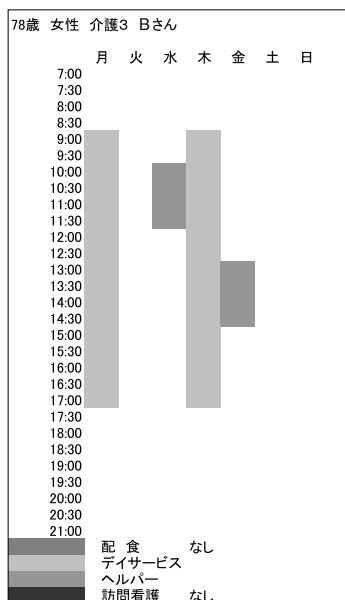
A：そやったらもっとはよ行ったらよかったあ、ゆうて。そやろー、だから私が、私が勧めてるのに
Q：あははは。
A：いや、いやーでも、子どものゆうこと聞かんねえって怒って
Q：あははは。
A：ははは。ゆうてましたけど。まあ、デイは行きたいです。
Q：はあ。
A：死ぬまで行きたいねえ。
Q：初めはやっぱ緊張なされた
A：そうやね、初めはねえ、でもそれでも2、3回行ったらねえ、もう向こうから喋ってきますでしょ？
Q：ああ、そうですねえ。
A：じゃあ、喋らん訳にはいかへんしねえ。もう何事でも気楽に

(2) Bさん(88歳)の場合

Bさんは介護度3、週2回(月、木)のデイサービス、週2回のホームヘルプ(水10:00~11:30、金13:00~14:30)を利用している。一日の殆どをベッドの上で過ごしているが、かつてはこの地域の地域活動にも熱心に取り組んできた方で、地域に知人も多い。私たちが訪問した際は新聞の株価欄に目を通していた経済的感覚のある方。夫とは死別し、離れて暮らす二人の子どもがいる単身生活25年の高齢者だ。将来的には老人ホーム入所も視野に入れながらショートステイの利用なども試行していた。

1) 食事や身の回りの世話

Q：ヘルパーさんが？
A：週に2回。一回目はねお掃除と洗濯と買物。洗濯はほとんど私がまわしときますけど。ですけどね、金曜日はね、買物3種類ほど料理作ってくれはる。あとは自分でお米も研いだりあれしたりこれでね、して、手はなんとも。他はなんともないんですよ。ねえ。
Q：買い物はヘルパーさんにしてきてもらって、買ってきたものを週に一回くらい料理してもらって、あとは？
A：そうそう。3種類自分でしてくださいっていうものをして、あの、してくれるんですよ。そのほかには、まあ、あの…娘と息子がいるんですよ。
Q：お子さんはお2人ですか？
A：うん。息子が奈良にいますからね、あの、お嫁さんが2週間に一ぺん、息子が2週間に一ぺん来て、おかずね、お昼と夕飯おいしいものを食べさせて、7時半ごろ帰って



くれるんですよ。娘はね、あの、神社の…嵐山の近くにいますからね。何か言ったらきてくれて、まあ、嵐山の近くにいますからね。月に2、3回来てくれますからね、あれなんですけども。」

2) 介護に掛かる費用

Q：その医療費なんかはずいぶんお金かかるんじゃないですか？

A：うん。一回来てもらおうと思ったらね、往診で3500円かかるんですよ。私びっくりしてね。まあ、あの、1回目は来てくれるということで、タクシーを頼んで、娘から来てもらって、ついて行ったんですよ。そしてらもうね、あの…1回目は3000円ですけれども、2回からは正常みたいなことを言っていたんですよ。1回目は3000円でなんとかだから、あとはちょっと安いと思ったんですよ。そしてら、2回来てもらったら、1回目は3580円だね、その次は1860円ですよ。ただ血圧とこれはかるだけで。ほんでね、

私どこも悪いとこ無いからね、先生、一回にして、そしてら安くなるしなあ言うてね、1820円って電話で言われるんよ。だからここにちょっとお金入れてあるんですけどね。一回になったら安いしなあ思っって。

Q：ああそうなんですか。ふうん。何か制度があるのかな。

A：〇〇薬局はそれかわりね、2回に分けたら、薬は980円のほかにね、1回配達料の500円。2回目は300円と、配達料あるんですよ。

Q：デイの利用料とか、ヘルパーさんの利用料とか…

A：デイはね、私、3回でしょう。だから、ここ立てないのでね、あの…迎えに来てもらうのはみんな、送り迎えはあれですけどもね。あの…風呂入るときにね、風呂場でちょっと脱いだり脱がしてもらって、それでもう…風呂に入るのはつかまって歩けるんですよ。でもここ手すりのないことね、手で持って歩いてるときは、ここのところがものすごく痛くてね。だから、1ヶ月でね、だいたい、9回いまして、私介護3ですけどもね、13500円かかる。

Q：デイサービスの利用は1ヶ月9回？

A：9回。それで13500円。その他にね、食費がね、500円なんですよ。それが一切、あの、介護保険とか、あの…だから、食費入って13500円ですから…食費4500円入ってるから、要するに、9000円。あ、ヘルパーさんはね、えっと、週に2回ですよ。来てもらってるんで、月に2700円ぐらい。

Q：月に？

A：うん、月に。

Q：一回につき300円ぐらいですか？

A：そうですね。300円ぐらいです。それから、これがね、ベッドが1000円。マットが600円、これが、500円ぐらいですか。

Q：月々の支出もばかになりませんか。

3) ボランティア

Q：ボランティアの皆さん方も出入りがあるんですか？

A：はい、そしてね、あの…ボランティアさんはね、あの、「Pさん、たまにね、車椅子で水泳行きたくない？」って声かけてくれはるんですよ。この町内から。

Q：Sというところね。

A：S、うん。ほんで、私らも元気なときは、少しぐらいは役に立ってね、そんなんしてたんですけどね。だけど私見栄っぱりでね、突然こんなになったでしょう。もう西友行ったらね、「あら、Pさん、Pさん」言わはって、みんな知ってる人ばかり来るからね、嫌だから、絶対に嫌って言ったら、娘がね、「お母さん見栄はってるからね、余計に足が悪くなる」って言って、夜でもここから、これつかまてね、そこらでも散歩ね、隣の奥さんが、これにつかまて、「駐車場ここに作りはったから夜見に行きましょうか」って隣の奥さん声かけてくれはるんよ。だけど「いやいや、息子が、夜だし、怖くなったら、転んだらいけません」言って。誰に会うかわからんし。それでね、もうIさんでも何か言ったらもうすぐ、何でもしてくれて、ゴミ出しもしてもらったんですよ。

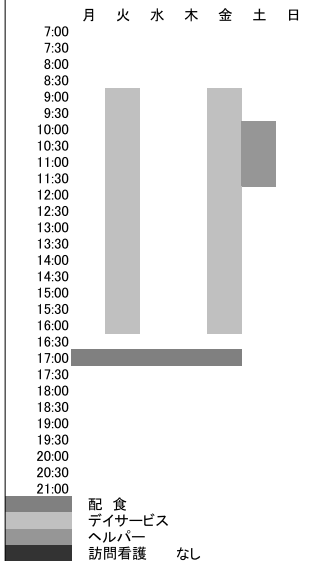
3) 次の「生活ステージ」—老人ホームのショートステイ利用の感想

A：そうですね。去年の夏…去年の5月に…今年やな。いっぺん、一人で生活してるけどもね、もし共同生活だったらどんなにかと思ってね、ケアマネージャーさんが（ショートステイを）申し込んでくれはって、3泊4日で行ったんですよ。私好きなようにしてんでしょう、そしたらね、3畳ほどの部屋で、カーテンで、向かいに男の人がいはるんですよ。こっちの人はね、いいんだけどね、もう何かをおとしてるんですよ、もうそんなんだね、男の人ばけてるからね、もう夜中の12時にテレビかけたり、朝6時からもう、止めないで入ってるんです。

(3) Cさん (82歳) の場合

Cさんは介護度2で、週2回(火、金)のデースサービスと週1回土曜日(10:00～11:30)にホームヘルプサービスを利用している。また月～金曜日は夕食の配食サービスを利用している。また配食サービスが休みの土日は近所のよろずやさんの出前を利用しているという。再婚した際の夫の連れ子(長男)が大阪に住んでいる。夫を亡くした59歳の時から23年間のひとり暮らしの生活だ。老人ホームへの申請もすでに済ませており、早くに入所が決まること

82歳 女性 介護2 Cさん



を望んでいた。

1) ホームヘルパーのお仕事

Q：どんなことしてもらってるんですか？

A：掃除と炊事と買い物に行ってもうて。ほってお薬もらいに行ってもうて。スーパー一緒に行ってもろて。買い物によろ行きまへんねん。

Q：お母さんは買い物なんか行かれるんですか？

A：行きやしませんねん。

Q：あと、外へ出ることはあんまりないですか？

A：あんまりない。それこそデイサービスの車で送り迎えぐらい。こないだも、この車(老人車)押して歩けるかな思て、15分ぐらいやったら歩けます。そこへ行ってもまた戻ってこんなんですね。あんなところぐらい行けるわ思ても、はあこれからまだ帰らんなん思て。それがちょっとおっくうになってきます。怖いどす、何が起こるやわからん思て。

Q：ほんな週2回火曜と金曜に出かけて、土曜日はヘルパーさんが来られて、あとはもうお母さん一人でやってらっしゃるんですか？

A：そうです。

Q：洗濯やら掃除はご自身でされるんですか？

A：掃除はもうヘルパーさんにしてもうて。洗濯は洗濯機がしてくれますさかいに、入れるだけはね。

Q：干すのが大変ですよ？

A：干すのは、いつの間にくれはったんやろなあ思うぐらいはよ干してくれます。

Q：ヘルパーさんが？

Q：Cさん、ヘルパーさん週1回でしょ？もっと来てほしいなと思いませんか？

A：…そうでもない。やっぱりね、昔人間やで来てもらうのも気使いますねん、ハハハ。

2) 毎日の食事は配食サービス利用

Q：炊事とかはおてのものですか？

A：そんなもう邪魔くさいでお弁当持ってきてもうてます、晩に。土日祭日は休み。

Q：お弁当はどこから持ってきてもらうんですか？

A：なんちゅうとこやろ？ここに書いたります。

Q：すこやかネットワークっていうところなんだ。NPO法人。こんなところあるんですか？お弁当持ってくるんですか？

A：おかずだけ。ご飯は私が炊きますねん。

Q：美味しいですか？

A：いや、これはね、減塩どすねん。私糖尿やから。ほんなら会合に行ったら同じもん2回食べたらあかん、3回食べたらあかん言うて。そんなもんこだけぐらい作れやしませんやんか。ほんでもういいわと思て区役所行って…。

Q：これ便利ですね。減塩とか健康に留意した食品が出てくるんやね。

A：ほんで入院したとき、170血糖値があつたんですけど、この頃120とか。ほんで、それを来てくれはったときに、糖尿ですさかいに言うときますねん。いろんなんはあるんやけども、そのようにしてくれはる。美味しいことおへんのどす。

Q：減塩やつたらね。

3) 土日は近所のよろずやさんの出前

A：そうです。ほって土日祭日が休みどすねん。ほんで西野の〇〇（店名）さんと、土曜日は晩に持ってきてもらうん。

Q：それは普通の食事ですか？

A：そやけど、あんまり辛くせんといてやっちゅうてありますけど。そういう人がよいけいはんねやね。私もあそこの通り道からこんだけ入るから、車で入ったらガソリン代もかかるし気の毒やなあって言うてたら、自転車で行くでって言うてくれはったし。

Q：〇〇さんっていうのは食堂やさんですか？

A：いや、よろずやさんですな、昔からの。家庭用品やら赤ちゃんのやら。

Q：どのへんにあるんですか？

A：西野の公会堂の、そこの四辻を東に行つたところどす。もう一筋向こう。ちょうどお寺の通り。公会堂のちょうどはす向かいになります。もう昔から、洗剤やらなんやらいろんなんもタバコもお酒もみんな。

Q：そういうお食事の用意もしてくれるんですか？

A：してくれはります。夜だけね。ほんでこないだ雪が降つたときも、祭日が続いたときも、あ、お盆やった。「お盆なあ、ここなあ休みやしなあ、スーパーのんやつたらいつ焚いたんかわからんけど、あんたとこやつたらその日その日に焚くんやさかいに2、3日持つもん持ってきて」言うて。もう好きなことが言えますさかいなあ。

Q：食事はそしたらもうご飯炊くだけで。

A：ほんで、朝とお昼はもうふりかけとかのりとかそんなもんで済ませてます。もう退院して帰ってきたらパンが食べられまへんねん。甘いもんが食べられへんで。

Q：食べたらだめだっていうことではなくて、嫌いなんですか？

A：病院でおやつがありゃしませんやろ、そのくせがついて。チョコレートやらなんやろよう食べてました。それがもう食べたくない。

Q：糖尿の場合はいいじゃないですか、食べたくないほうが。

A：それが良いどす。

4) 老人ホームに入所申請している

Q：今一番困ってらっしゃることは何ですか？

A：もうホーム行きたいだけ。そやけどね向こうがね、時間がなかなか取れまへんねや。

向こうは向こうの用事があるからね。もう57か8やで、もうあともうちょっと頑張らんなあ、今もしものことがあったらなあ…。

Q：でもほんと決まったら安心ですよ。

A：決まったら安心。もうお互いに楽どっしやろ。「あきら、こんなんかったし来てくれへんか」って言わなあかん。向こうも「どしんやいな」っちゅうて。ほしたら、ダイ行くとね皆がね、こないだは娘が来てくれてん、こないだは息子が来てくれてん言うて。うちとこ生きてるか死んでるかもわからへんでっちゅうて、ハハハ。

Q：でも気にはしてますでしょ。

A：まあ全然よそみたいなこと…。ほんでね、実のお母さんと会わせてますねん。主人が亡くなるときに、弟が一人向こうに置いてあるから、ほんでその子を区役所で探してもろて。ほんで主人が会って3日後ぐらいに亡くなった。その子と今ちょっとお付き合いはるさかいに、ほんで私もこんでもう安心して逝けるっちゅうて。一人っ子っちゅうんは寂しいでね。私も一人で寂しかったで、この子にはそんな思いさせんとかて。

5) お金の心配は？

Q：お金のほうは心配ないんですか？

A：お金はそんな心配しやしません。ほんでその〇〇さんから、たまにお造り持ってきてえなっちゅうて。今まで回る寿司やら行ってきましたやんか。それが行かれへんから、お造り持ってきてえなっちゅうて。ほしたらいっぺん焼き魚持って来てくれはって、それが辛いんや。「もうこんないらん、一週間にいっぺんやしかまへん、土曜日ずっとお造り持ってきて」ちゅうて、ハハハ。もうええわあ、回る寿司も旅行も行かへんのやしなあ、土曜日お造りと焚いたもんと、ちょっと贅沢かなと思ってるんやけどホーム行くまでやと思て、ハハハ。

このCさんのインタビューで忘れられないコメントがある。それはデイサービスへの次のようなCさんの印象である。パッと世間に出たような、という。デイサービスは利用者にとっては、特に単身高齢者にとっては「介護の場」と同時に「みんなと暮らす場」「社交の場」でもあるということを強く教えられた。

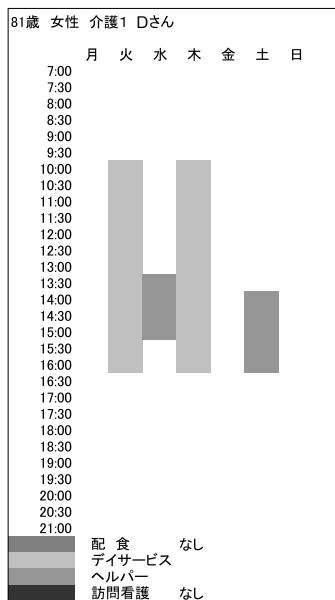
6) 「パッと社会に出たっちゅう感じやね」

A：もうそんな育ち方やでね、面白いっちゅうことを知りまへなんだ。今ほんでデイで勉強させてもらうようなもんどす。パッと世間へ出たっちゅう感じやね。今までそんな世間に出てない。

(4) Dさん (81歳) の場合

Dさんは介護度1で、デイサービスを週2回(火、木)、ホームヘルプも

週2回（水13：30～15：00、土2：00～4：00）利用している。海外旅行の経験も豊富な非婚のキャリア女性（元公務員）で、いまでも近所の方6人で生協の共同購入も利用している。近所に住む85歳の姉が一番の頼りという。



1) ヘルパーさんにも気を使いながら

A：お昼やはまあね…前の日の残ってたもん食べてみたり、簡単なもん食べてるし、夜だけちょっとやっぱり栄養があれやから、まあ自分なりに適当に…まあ、ヘルパーさんに頼んだらええんやけどね、何かな…そこまで頼むのはちょっと気が引けるし…

Q：ヘルパーさんは週に…？

A：週に2回。ヘルパーさんは週に2回で、それからデイサービスに週2回行ってます。

Q：どうですか？デイサービス利用されて楽しいですか？どんな感じですか？

A：私ほら、常に一人やから、向こう行ったら結構お友達できるし、楽しくさせてもらってます。

2) 元気な時には友人と海外旅行も

A：ほら、私一人やから、暮れやとか、家にいてもしょうがないでしょ、お正月やら。だからお友達誘って、よう海外旅行行っつたよ。

Q：へえ、どこに行かれました、海外は？

A：ヨーロッパ2回行っつたでしょ、それからバリ島やとか、カナダとか、オーストラリア、ハワイはさ3回ぐらい、それから中国、それから台湾も行っつてね。

Q：すごいですね。好きなんですか、ご旅行？

A：面白いわね、そこの土地、土地の生活状況が分かるからね。楽しかったですよ

3) 近隣の支えも一生協の共同購入仲間やご近所の知り合い

A：あとはヘルパーさんに買い物行ってもらったり、あとは生活協同組合？生協さん？あれでお願いしたりしてるから、だいたい食べる物はね。ええ加減なことやし。

Q：いやいや。生協さんっていうと、それは家に届けてくださるんですか？

A：いやいや、今はね、こころ6人ほどで組んでやってるから、そこの行き当たりまで来てはるんですよ。だからそこまでだけは自分の車押して、それでもらいに行っつてね。

Q：そうですか。じゃあそのときに6人でちょっとお話とかされたり？

A：そうそう。やっぱりそうやって皆でお買い物しとくほうがね。皆さんの顔が見られるから。「元気です」みたいな顔見せとくと、心配してくれはるし。ごみやらでも、ご近所の人やうね、私が持つてぶらぶら行きかけると、「持つてったげるよ」って

言うてちゃんともって行ってくれはるから。皆に助けてもらいもって。

Q：ごみ出しもね。ゴミ出すところは近くですか？

A：出すところはそこの行き当たり。川のところにフェンスがあって、網かかってたの知ってる？この行き当たり。杖つきもってかたっぽでぶら下げて行くもんやからご近所の人が、「行ったげよう」言うから。

Q：ああ、なるほど。

A：なるべくね、みんなに会わんようにと思うんやけど、時間が一緒になるからね。皆さんに甘えてます。

4) 頼りの姉

Q：何か一人でしてて心配事であつたりとかはありますか？

A：心配事か…何にもない。心配するほどの財産もないし。あとは好きに使ったらええと思うし。そんなや。

Q：別に生活に対してそんなに困りごとは…？

A：そうやね。うん、あんまり困らへんかな。ちょっと自分が弱気やから、これもうちょっと強なってね、ちょっとぐらいしんどうなっても我慢してからだ動かしたらええんやけど、それをせえへんから。結局兄弟が多くて一番下やったから、みんな上の人がしてくれてたでしょう。その甘えがあるからあかん。

Q：なるほど。

A：今も姉がいてくれるしええけど、あの人がいなくなったら私どうしようと思って。

Q：そうですか。

A：なったらなつたときやけどな。そうやな。あと、何があるやろなあ。

(5) Eさん (91歳) の場合

Eさんは要支援2、週1回(火)のデイサービスと、ホームヘルプサービス(木)、配食サービス(夕食)を毎日利用している。78歳までデパートの清掃のパートをしていた。要支援2とはいえ足腰が随分と弱った感じがした。子どもは3人(男2人女1人)いて、夫は30年前に、彼女が60歳の時に亡くなった。

1) 78歳まで清掃のパートのお仕事

Q：脳梗塞を患ったのは80過ぎてからですか？

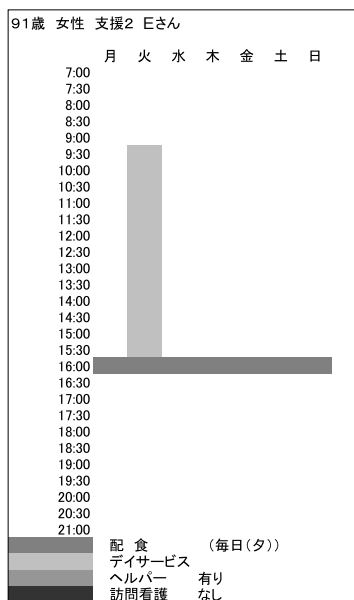
A：そうだな、まだ5・6年(前)ですわ。

Q：ああそうですか。じゃあ85・6のときに…。

A：そう。

Q：それまでは元気いっぱいだったんですか？

A：元気。長いことね、78まで高島屋におりましたんや。



Q：お仕事ですか？

A：うん。清掃の方で。ほんで、78までになったね、うちの末の息子がね、「おかん、一体月なんぼ足らんねん？」って言うて「足らんだけ援助するから、もしもあんたが向こうで倒れたら、あんたが文句言われるんじゃないくて、高島屋が文句言われるんやで」って。80なんぼのおばあもなあ…。それで辞めましたんや。78で辞めて。

Q：辞めて、もうお一人で。

A：うん。月（給料）安い安い。私パートでしたやん。で、パートの年金をね、少しかけましたんや。ほんでその、足らん…パートの年金と、息子が…

2) 65歳の娘と57歳の次男の仕送り

Q：仕送りいただいてるんですか？

A：仕送りいうたって、2万円でんがな(笑)でもまあ2万円でも、パートの年金やからね、安いですわ。恥言わなあかんけど、2ヶ月でね14万でんねん。そしたら、1ヶ月…7万円どすやろ。ほんならここの家賃が4万6千円でんがな。

Q：半分近くが家賃になりますね。

A：そんなもん全然 しませんがな。ほんでもね、少ないですけど息子がね、末っ子(58歳)が2万円。ほんで娘(65歳)がね、長岡天神におりまんねん。それが月1万円、娘が。(合計)3万円。ほんで年金と。年金ゆうたらね7万から8万あるかな。そんなギリギリでんがな。せやけどな、私は昔むちゃくちゃな女でしたんや。酒もタバコも。せやけど病気、脳梗塞を患うてからもうなんにもせやしません。おとなしいもんで。

3) デイサービスの人間関係

Q：それからですか、デイサービスなんかを利用されるようになったのは？

A：デイかって行ってまだ何年もなりやしません。藤本先生がな、「Eさん1日なにしてはんねん？」言うて「いや、食っちゃ寝、食っちゃ寝、してますわ」言うて。「そんなんしてたらあかん。今はデイサービスゆうのができてるから行きい」言うて「紹介するから」って。ほんであの、あ、私1番最初にいたところは百々(注—センター名)ね、あそこ行きましたん。

A：うん啖呵をきった。大阪のオパハンは。なんでも気に入らんかったら言うてこうてこいって。大阪のオパハンは口では負けへんねから。

Q：大阪のデイサービスセンターやったらなんかこの、ものすごい流行ったかもしれへん

ね。

A：流行るねえ。

Q：いろんな人がおって、毎日が漫才やね。

4)「夜（目が）開いたら1人どすやろ？このまま死ねたらなあって」

A：そうそうそう。さみしいでっせ、1人ジッと…。夜（目が）開いたら1人どすやろ？
このまま死ねたらなあって思うとき、なんぼあるやわかりやしまへんで。朝目開かんと、そのままズーッと死んでったら…

Q：いつぐらいが“さみしいな”って気持ちになりますか？

A：やっぱり寝られへん時や。

Q：ああ…寝られへん時…

A：なるべく昼寝せんようにしてるんやけど、やっぱり、目が悪いとね、ごっつい目をしまいますやろ？せやからテレビでもかけてまんねん。せやけどさみしがっても死んだもんが帰ってくるわけでもなし、1人や…向こうで。せやからね、泥棒来たってなんにも怖いことあらへん。「金をくれ」言われたら「よかったら持って帰り」って。

Q：ドアはいつも開けっぱなしで？

A：開けっ放し。デイ行くにも1日開けっぱなしでっせ。昨日、おとつい火曜日帰ってきたらね、ヘルパーさん、いや違うわ、看護師さんが「Eさん」って、「なんや？」「テレビ付いてんで」って。「なんでわかるか？」言うたら「鳴ってるがな」って。開けたら付いとんねん（笑）

5)「さとうのごはん」—たくさんのレトルトの買い置き

A：こんなん、サトウのごはんいうてぎょうさん買っときまんねん。[冷凍庫を開け、中を見せてくれた]

Q：ああ、これね。

A：ほんでこんな親子丼（レトルト）やらね。

Q：ああ、はいはいはい。

A：中華丼とかね。これお湯で温めたら。

Q：こういうのが出てきてよかったね、しかし。

A：よろしでっせ、うん。

Q：若い人ばっか使うかと思ったけど、お年寄りも使うんやね。

A：ああそうでんがな。こんなん1番喜びまんで。

Q：冷凍庫ね…なんか、冷蔵庫はあんま入ってないけど、冷凍庫はもう満杯ですっていう人がおったわ（笑）これで解凍して…ご飯はサトウのごはんさんか。

A：サトウのごはん。

Q：これ電気（コンロ）ですよな？

A：そう。あとはお茶を沸かすだけですわ。

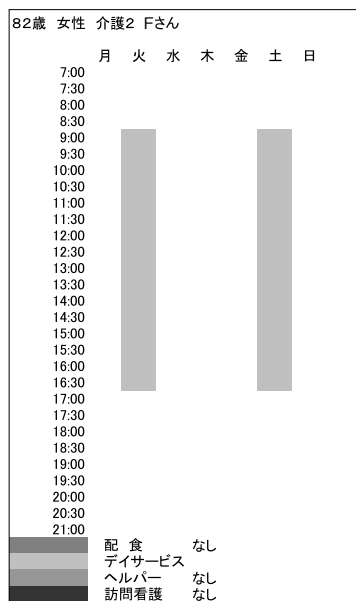
Q：まあチン（電子レンジ）もあるもんね。

A：うん。……だから何も不自由ない。

Q：1人やったら全部手の届く範囲にあるからね。

(6) Fさん(82歳)の場合

Fさんは介護度2、デイサービスを週2回(火、土)だけ利用している。80歳近くまで働いていた。「年金暮らしだし、家賃とデイのお月謝払ったら恥ずかしいくらいしか残らない」と話している。利用料負担が介護サービスの利用を控えさせているケースだ。



1)「家賃とデイの“月謝”払ったら殆ど残らない」

A：結局、本当年金暮らしだし、家賃払って、デイの御月謝払ってたら、本当お恥ずかしいしか残らないんです。

Q：だいたい、どのくらいデイとかってのは…

A：えっ？

Q：デイとかってのはどのくらいかきり…

2) デイサービスでのプログラム

A：デイは、週に2回だけだから、お風呂に入れてらって、入れて、食事して、ほんで、なんかあのゲームをして、ほんでカラオケをして…

Q：カラオケ？

A：結構カラオケ、上手い言うたらおかしいけど、デイにいったからカラオケするように、その週によって違う、こういうもん作ったり、ね。それから自分の好きななんする日が…1週あるんですよ、3週目くらいにね。あとは決まってるんです。バレー、風船パ

レーとかね、色々とか…結構楽しいですよ。行くの楽しみ。

Q：楽しいですか。お食事はおいしいですか？

A：ええ、美味しい。

Q：昼ごはんですよ？

A：ええ、お昼。

Q：朝は家で食べて行かれるんですよね？

A：うん、朝は。

Q：だいたいまだ、自炊とかなさってるんですか？

A：朝はパンとコーヒーと果物ね、ほんでお昼はまあ、カレーしたり、なんかあの、箸やすめにちょっと煮物したりね。でも買い物ちょっとこのごろね、うっとう、面倒になったから。

3)「デイの利用を減らされた」、でも費用がかさむので多くは利用できない

A：週・月に一回こういうの選べるデイがあってね、したいことするの。

Q：最近は何されたんですか？

A：最近はゲームだからね、今週はゲーム。明日・明後日はゲーム。ほんでその次は敬老のアレだから、踊りにきてくださるの、ボランティアでね。結構楽しい。

Q：朝迎えに来てくれるんですよね。

A：送迎だからいけるけど、乗り物ではとても行けない。ありがたいですよ。

Q：何時ごろ帰ってくるんですか？

A：あのいろんなお風呂入って、食事して、それからカラオケして、ほんであとは自由にして、ほんでお3時がきたらおやついただいて、あとはもう終わり。それで、4時ごろまでなんかべちゃくちゃお喋りして…

Q：でも今一番楽しいのはデイ？行くの楽しいですよ？楽しみですよ。

A：うん、楽しみ。明後日デイだからね。

Q：毎週何曜日とかは決まってるんですか？

A：うん、火曜と土曜。

Q：もっと、毎日行けたら行きたいくらいですよ。

A：毎日行ったら…

Q：疲れちゃう？

A：疲れるより、お金が足りないと思う。

(7) Gさん(86歳)の場合

Gさんは介護度1だが、今回の調査対象者の中では、デイサービス週3回(火、木、土)、ホームヘルプサービスが週3回(月11:00~12:00、水10:30~11:30、金10:00~11:30)、配食サービスで毎夕食を届けてもらうなど、制度の利用頻度、メニュー共に多かった。夫は33年前に57歳で亡くなった。この家に引っ越して2年目の時という。以後ずっとひとり暮らしの生活だ。

1) デイもヘルパーもない日は、「一日がものすごく長い」

Q：デイには週に3回。

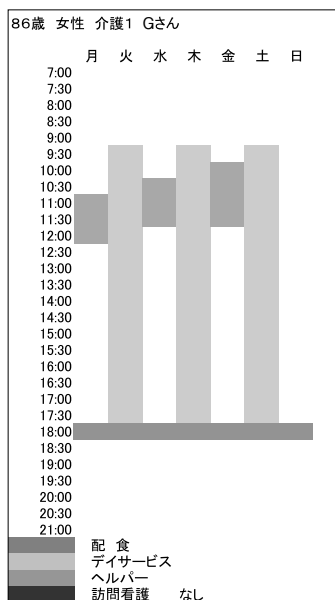
A：火、木、土と行ってます。その間あいだはヘルパーさんが来て

Q：ちょうどいいですね。ヘルパーさんはいつ来てる？

A：月、水、金。

Q：で、日曜が

A：そうですね、ゆっくり過ぎてから、なんか日曜日と月曜日と、月曜日でも誰もねえ、ヘルパーさんも。あ、ヘルパーさん来はるんやわ、月曜日。だけど、日曜日はまるまるあれやさかい、月はヘルパーさんが午前中ですし、日月はあのものすごく長く感じますねえ。



2) ヘルパーのお仕事

Q：ヘルパーさんにはどんなことしてもらってるんですか？

A：いや、あの一、なんか決まりがあつてねえ。自分の立ってる部屋だけ、台所と奥が寝室でそことおトイレ、お風呂は私、一人で入れます、これがあいてるからね。ほんで、おトイレと。ほんでここ、応接間もあの一、私が使うべくでなしにお人さんがみえたらここに、ここで喋ってもらったらいんですけど、物置になってるんですよ。ほほほほ。

Q：うん、うん。

A：あははは。そんなもんでねえ、もう、まあ、日払いで決まってるんですけども、時々内緒であの一、あれですよ、こないだもねえ、何を、あの、まあ他にいない時は別に押入れの方でも整理手伝ってもいいよっておっしゃって頂いたんですけどねえ。話ばかりしてもらいますけどね。

Q：買い物とお掃除と洗濯と

A：洗濯は洗濯機が勝手に。乾燥までしてくれますから

Q：あつ、干すのは

A：干すのは自分でしてたんですけど、裏まで。この子がガレージにしていますからねえ、まあ、昼間やさかい、干したらええんですけど、なんやだんだんこう、不精になってきたんやか、ここが調子悪いんか知らんけども、持って行くのがもう無理やから、もう乾燥

Q：全自動で。

A：はい。してますけど。だんだん不精になると体が落ちぶれていくんと。あははは。

Q：買い物の場合はどこで。

A：はい。

Q：もう全部おまかせですか？

A：あの、あの一品物だけで、メモしてもらって

Q：ああ。

A：ほして、もう、大概、あの一、まちやですか、あそこらへんでこうきますけど。あの一、私は西友がカードでね、

Q：うん。

A：カードで買いますと、現金持って行かんで済むし。あの、ポイントにもなりますし、それ、初めしてもらってたんですけど、あのなんか止められたらしいですわ。

Q：そうなんや。

A：カードを使ってもらうと何か事件があつたりするとねえ。

はい、はあはあはあ、なんかそんなん。その方じゃないんですけどね、あの、だからそこへ来て行ってもらってるんですけど。

3) 特養の配食サービスも毎日利用

Q：お料理なんかはどうされますか？

A：料理はねえ、もうまた、全く出来へんのですよ。あの一、晩だけあの、あの、D（施設名）から持ってきてもらって

Q：毎日ですか？

A：はい、毎日。

Q：土、日も？

A：はい。

Q：あ、そうですか。

A：お正月でも頼んだら来てくれるんですよ。

Q：あ、そうですか。

A：1食630円です。みな付いてますねえ、きれいに、お魚やかてんぷらやかおつゆとかそれから酢の物やか、お吸い物やかお漬物も。

Q：ああ、そうですか。朝とかはどうしてますか？

A：朝はパン食にしていますから。

Q：朝はパン食。

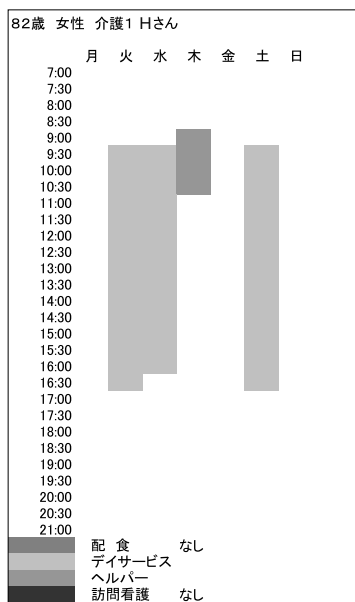
A：はい、で、お野菜こうてきてくれはったのをサンドにしてねえ、食べますし。

Q：そうですか。それでもうほとんど自分で作る必要ないですねえ。

A：ないんですけども、やっぱり野菜のねえ、あの一、おかずがやっぱり田舎もんですから。あの一、ついつい田舎からジャガイモが取れたとか送ってくるとやっぱり捨てるのはもったいないしねえ、ちょっと手を加えたりしててね、なかなか味がもう、デイのが1番美味しいですわ。

(8) Hさん (82歳) の場合

Hさんは介護度1、利用している介護サービスは、週3回（火、水、土）のデイサービスと、週1回（木）のホームヘルプサービス。デイサービスは「同じところばかりでなく違うところも」と2つのデイサービスセンターをそれぞれ週2と週1で利用している。学区社会福祉協議会が行っている会食会も楽しみにしているというが、悪徳商法に騙された経験も語っていた。再婚した夫の間には子どもはいないが、前夫との間に娘が二人（57歳と59歳）いるが、会っていないという。夫が亡くなったのは彼女が65歳の時。17年間のひとり暮らしの生活だ。



1) ゴミ出しにもサポートが必要

A：ゴミ出し？ヘルパーさん来てくれはんねん。…うん。ヘルパーさんがねえ、今まで月曜と木曜とね、来てくれてはったんですねん。今も来てくれてはんなかな？もう、私も元気になった、この前悪かったしねえ、ずーっと寝たきりでしたんや。腸が悪かってねえ、しんどかって、ずーっと寝たきりやったし、月曜と木曜と来てもらってんけどね、もう一回でええわって言って…木曜だけになったんかな。来てくれてはんにね、その時にね、ゴミ出してきてはります。せやから私はゴミ、出したことない…あんまりゴミもたまりませんねん。…外食してたらあんまり、あらしませんやろ。そやからねえ、まあ家で菜っぱちょっと、菜っぱ買うてきて、好きやから、菜っぱ炊いたりする時にちょっと、菜っぱの、ねえ、苗があるから…ゴミがねえ。あんまりねえ、ゴミがたまりへんからねえ、うーん、一週間に一回位出してきてはんなかなあ。まあ、たまったら出して一言うてね、もうヘルパーさんに頼んであるからね。

2) デイサービスにも違う個性

Q：でー、そのデイサービスに行く…2回でしたっけ、週…

A：今ね、3回行ってます。あのね、火曜と土曜とC行ってね、で、水曜日にH行ってますねん。うん。

Q：あ、違うとこ？

A：違うとこ、うん。…同じとこばっかりやのうてねえ、ちょっとよそ行きたいなあ思うてねえ、ほんでちょっと、H行っただすねん。…やっぱCの方がええ、いいですけどね。うん。

Q：楽しいですか？やっぱデイは？

A：うん、楽しいですよ。向こうで友達がね、しゃべったりね、ほいであの一、ぬり絵で…塗ったりねえ、色々してますねん。

Q：デイは皆顔見知りの方…ばかりですか？

A：うん、ほいでやっぱCの方がね、あの一、気の合う人がいはるからね。よろしいわ、うん。4人ねえ、気の合うもんがおるさかいにねえ、Cの方がよろしいけどね。Hねえ、まだそういう、気の合う人がねえ、ないのでねえ、あんまり…

3) 悪徳商法の被害にもあった

Q：何か今一人で暮らしてて、不安であるとか心配なことってありますか？

A：やっぱしねえ、あの一、この前ね、なんかね…あの一、あれ、さお竹売りに来はってねえ、…だまされてねえ、買うたんですねん。うん。あの一、さお竹がねえ…あれなんぼやったやろ…これと違う、これと違うかな、一本長いやつでしたけどねえ。ほんで長いさかい、切ってくれ言うて、切ってもらたんですねん。…あれなんぼやね、2万円言わはったかなあ。

4) 「ワイワイ歌ったりしゃべったり」―地域のひとり暮らしの会食会が楽しい

Q：逆になんかこう、今、今一番楽しいことって言うとか…

A：…あの一、一人暮らしのね、お食事会行くのが楽しいね。…向こうでね、あの一、食事、呼んでくれはんでねえ、ほいであの一、歌うとうたりね、うん。

Q：歌歌われるんですか？

A：うん。そうですねん。歌うとうたりして、ほいで、あの一、皆とワイワイ喋ったりね、歌うとうたりして、…3時、3時頃までね、行ってますねん、11時頃から行って15時頃帰ってきますねん。

(9) I さん (55歳) の場合

I さんは単身高齢者を対象とした今回の調査では別格の若い糖尿病による障害者。男性ということで特別にインタビューに答えて頂いた。介護度は2、デイサービスを週3回（月、水、金、水曜日だけ午前中の利用）、ホームヘルプが週6日（月8：30～10：00、12：00～13：30、火8：30～9：30、木8：30～9：30、金8：30～9：30、土8：30～10：00、日8：30～10：00）、訪問看護が週2回（月10：00～10：30、木9：30～10：30）、という利用状況だ。医療的ケアの必要な障害者の場合ではこのようなケアプランとなる。

1) 若年者のデイサービス利用

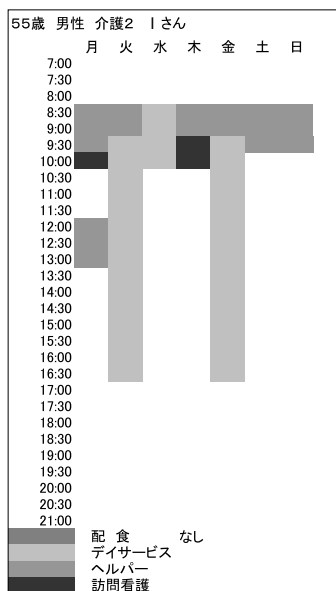
Q：デイは、週何回行かれてるんですか？

A：2回。

Q：で、そのデイ以外のときは、もう、専ら、ここに？

A：：もっぱらここにいる。

Q：どこか出かけたりはしないんですか？



2) ヘルパーのお仕事

A：うん、最近うか、今年、去年ぐらいから…去年？今年？ヘルパーさんが入ってくれるようになってね。ほぼ毎日。

Q：あ、毎日ですか。

A：うん。こういうふうに毎日入ってくれんねん。

Q：あ、ほんと。あ、これって2人…この2人書いてるっていうのは？

A：あの、買い物ある日。

Q：はい。あ、もう、別々の方がいらっしゃるっていうことですか？

A：うん。朝来てくれるから、まだスーパーが開いてないから、えっと…月曜日と金曜日は、二人になんねんな。今曜日はデイ帰ってからやから4時半ぐらいから買い物係が来て。

Q：へえ。

Q：いま、毎日誰かがきはんのですか？

A：うん。起こしてくれるの。

Q：ああ、そうですか。買い物っていうと食事の？

A：そう、おかずの材料とか。うん。

(10) Jさん (84歳) の場合

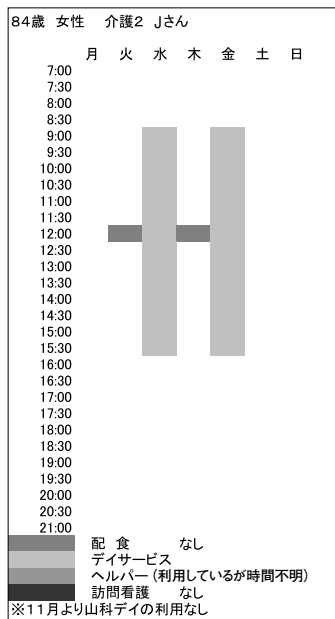
Jさんは介護度2、利用している制度はデイサービスの週2回(水、金)と、ホームヘルプサービスが週3回(月、火、木)、配食サービスが週2回(火、木)である。緊急通報システムも利用している。夫は55歳で退職。退職した翌日に足の骨折で、75歳で亡くなるまでの20年ほど車椅子生活になって暮らした。今年夫の13回忌を執り行ったという。子どもは京都に1男2女で、最近、長男(末っ子)夫婦が退職して東京から帰って近くのマンションに暮らしている。

1) デイサービスとホームヘルプサービスの利用

Q：お母さんここで一人で暮らしてて、デイは週何回行ってるんですか？

A：週2回行ってます。水と金と行ってます。

Q：それ以外は？



A：ヘルパーさん。

Q：あー。ヘルパーさんいらっしゃる。何曜日ですか？

A：月火木と…3回来てもらってます。

Q：そしたら、あの一水と金がデイで…間がヘルパーさん。あ、ちょうど上手い具合にってますね。

A：そーそー。やっぱり家にいといてもねーかなわんしね。わけておしゃべりやから。人とししゃべるの得意やから。(笑い)

Q：ヘルパーさんはどんなことをお願いしてるんですか？

A：それはその日によりますけど、だいたいお掃除とか買い物ね。私、この足やから結局重いもん持てませんねん。だから買い物が主ですけどね。でも、昨日月曜日買い物した、今日は買い物行ってませんし。ちょっといま…あのサラダを作ってほしいって大体下ごしらえして帰ったんです。

Q：あ、今日もいらしてたんですか？

A：1時間半。

Q：1時間半ね。んー。

Q：お料理は、ヘルパーさんにやっていただいて…？

A：それはね、時間があればしてもらいますねん。

Q：でもご自分でも？

A：やっぱり自分でもしないとね。やっぱり頭、かないませんやん。段取り考えて。(笑い)できるだけ自分でするようにはしてますけどね。

2) 配食サービスの利用

A：今日はお弁当するん。ここにお金。先月分のお金と置いてあります。

Q：お弁当を取ってはるんですか？

Q：どこから取ってらっしゃるんですか？

A：なんか〇〇（施設名）(?)のね、老人ホームで、割とね、良心的なところでね。友だちとってるしね、デイ行ってる仲よし取ってますねん。それで、ちょっと取ってますねけど。

Q：一食…600円くらいですか

A：500円。割とね…もうまもなく来ますわ。お昼前にね。

Q：デイでお食事は週2回じゃないですか。

A：デイで、お昼ね。

Q：あとは、このお食事は週何回くらい取ってらっしゃるんですか？

A：2回。

Q：週2回。

A：火と木と家にいる日ね。今日、火でしょ。で木と2回取ってますねん。

デイ行ったらもちろんお昼出るし、おやつもでるし、それで助かります。

A：一人暮らしの人、お願いできるみたいよ。先月はね、娘らと出かけたからあんまり取ってません。で今電話で3000円って（注—@500円×6回分）。見てください。これ献立表。割合ね…。こういういろいろね。

Q：あら、おいしそう。

A：そうよ。必ずちょっとフルーツが付いてね。

Q：いいですね。

A：割合ね。私も…。ごはんかてこんだけ、残りますよ。

Q：多いですね。

A：だから1/3は残るね。夜またこれとなんか。割合ね、おいしいの、ここの。ご飯が、割合、お米が割合おいしいのね、んー。

3) 毎日の食事や買い物の様子

Q：食事はお母さん、朝昼晩、三食？二食？

A：朝昼晩、食べますよ。

Q：食事、朝はご自分で作ってらっしゃる？

A：はいはい。朝はだいたいパンね。パンと牛乳とバナナとちょっとフルーツ切って。でお昼は、ま、これ、これ毎日じゃないですけど。今日はあの人野菜サラダ…ヘルパーさんね、今日買い物ないし、野菜サラダ、ポテトサラダ作って下さい言うたら、作って帰ってくれた。

Q：で夜は？

A：夜は、ほいでやっぱし、買い物してもらってきてあるから。だいたい自分で作りますやん。一人やから焼き魚買ってきててもろて、ね。ちょっとほうれん草のおひたし…そんでいけますやん、な。やっぱりそういうこともしないとな。なんでも…

Q：便利になりましたね。

A：そう、だから、コンビニあるしね。24時間営業もあるしね。

Q：そうですね。あとは…ヘルパーさん作ったり、お母さんが作ったり…。

A：たまに私も一緒に行ったりして、買い物ね、行ったり。

Q：あー一緒に。それはいいですね。

A：一緒に行くときやら…暑いとき行きませんが。何々買ってきて言うてね、メモして行ってもらえるしね。まあ今のところはそんなに不自由はないんですけど、精神的にはそりゃ寂しいわね、夜は一人やしね。

4) 茫漠とした不安も

Q：お母さん、いま一番の心配事なんですか？

A：心配事…心配事でやっぱり、一人住まいの…どうなって病気なって死ぬんかなとかか。思います。

Q：考えますか？

A：考えますよ。でもそれ、しょーがないやん。

Q：どんなときに考えるんですか？夜寝るとき？

A：夜2時、3時ごろ寝られへんときありますやん。お昼寝するから寝られへん（笑い）せやけど、もそんなことあんまり考えないようにしてます。どうせ一回死ぬやん。そやろ。

Q：まあ死ぬときはみんな一人やからね。

A：寝たきりになったらもう死んだほうがまし。ほんまのとこ。

Q：なかなか死ぬへんですよ、でも。

A：なかなか死ぬへんわな。でも寝たきりになるよ、これやがて。

Q：ならんように、ねえ。

A：だから…ねんけど。やっぱり年には勝てません。

Q：なったらもう娘さん来てもらいますか。息子さん来てもらう？

A：で、息子マンションも広いからね、私動けへんようだったらこの部屋空けといて一っで。逆や（笑い）そう頼んであんねん。あの一業者の人がね、あの一カーテンやらしに來たときにね、私のここの家あるの分からへんやん。お母さん広いしな、ここの部屋ひとつもらいなはれ、そう言うて言うてくれたからね、そうやね、動けへんようになったら、またここにやっかいになるかも分からんけどねー。今のとこ…（笑い）

（11）Kさん（78歳）の場合

Kさんは介護度が1で、利用している介護サービスはデイサービスが週2回（火、土）、ホームヘルプサービスが週2回（月10：30～11：30、木10：30～12：00）。Fさんは訪問活動が盛んな宗教団体Eの会員でそのコミュニティにも精神的なサポートを受けている。早世した姉の夫と18歳で結婚した。二人の息子に恵まれ、二人とも京都に住んでいるが、長男はいま癌で闘病中という。息子のことが今一番気掛かりだという。

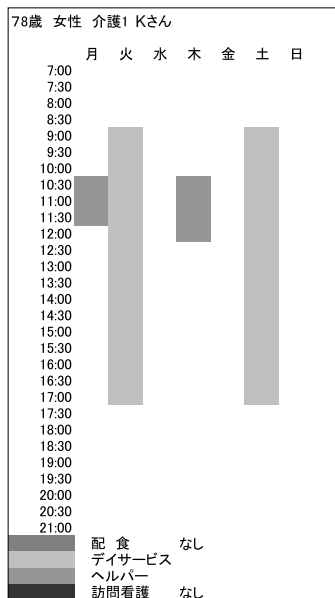
1）ヘルパーのお仕事

Q：どんなことをヘルパーさんはされるんですか

A：あの、ヘルパーさんですか。あのー だーっと掃除してから 今度は床をふいて んで その前に私がお風呂入ったり入らなかつたりしますから でお風呂の水を汚いですから抜いて下さります まあ二日にいっぺんか三日いっぺんぐらいか デイで入りますねん あっちにいったらね 二日に一回か三日に一回入るから 全部洗ってくださりますねん 家のお風呂あんまり入らませんねん 邪魔くさくなって 年とったらあきまへんな 80ですよあたし 80ですよ昭和4年生まれ

2）宗教コミュニティ

Q：聖書ですか



A：あーあのそこにあります。それを50年、お話をいろんなお話、いい言葉があります。

Q：やっぱり、信教を持つと生活は安定しますか。

A：そうそう、はい、違います、助けていただきます。これは仏さまですけどね、二つとも、私は二つとも信仰させてもらってますって初めに言ってます。

Q：仏さまとキリスト様ですか。

A：そうそう、神は一つです。そしたらね、自分の心が洗われます。何が起きても打ち勝ちますわ。なにくそって。

3) 一番気掛かりなこと一息子の病気

Q：今一番心配なことや気になることはありますか。

A：それはやっぱ。子どものこと、息子のことです。

Q：あー、ご長男。息子さんご病気ですもんね。

A：はい、ガンですよ。大腸がんです。弟はね、あんまり具合悪いとか黙ってるんです。

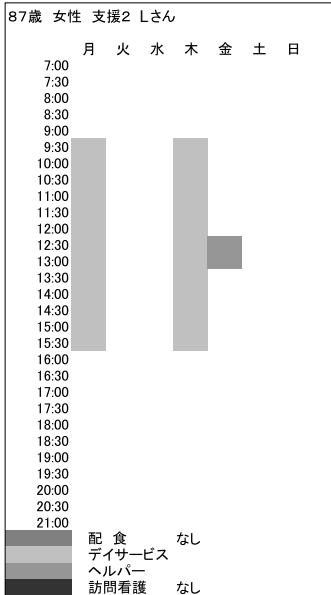
私に心配かけまいとね、お兄ちゃんはね、何でもいわはる。甘えさせて育ててますやろ。「あんた一人が病気じゃないんで」って怒るんですよ。そしたら、むかって「何すんねん、お母さん」っていうてきますねん。「何やそれ」って。次の日には、「お母さん昨日ごめんね」っていうてきますねん。「すみません」って。

Q：いつになっても、お母さん役は離れられませんね。

A：100になっても、親はね、ね、子どもがかわいい（涙ぐみながら）病気になったら、余計。長生きしてほしい、ほんで、いうてある。お母さんが死ぬまで死んだらあかんって。二人の息子に、体大事にしてやって。お母さんはかまへん。今死んでもいい。歳やから。あんたたちは長生きして、立派にけつたいなことをしたらいけん。

(12) Lさん（87歳）の場合

Lさんは要支援2、週2回（月、木）のデイサービスと週1回（金12:30～13:30）のホームヘルプサービスを利用している。子どもは女1人男2人（1人は死亡）で京都に住んでいる。夫は彼女が60歳の時に70歳で亡くなった。27年のひとり暮らし期間だ。



1) 「デイサービスを減らされた」

Q：デイサービスに行かないときは家で何をされてるんですか？

A：まあテレビも見てるし、うーん…色々あるけどね。だいたい前は、去年までは三回行ってたんですよ。二回になったの。

Q：ああデイが。

A：それがね足が悪いだけで、言うたら悪いけど、頭が悪い人をようけ入れるようになったの。

Q：ああ～

A：うちなんか家おってもお風呂入られへんしね。

Q：はい

A：足が痛いでしょ。だから、お風呂屋さんに行こうと思っても行かないしね。だから夏はもうお風呂はあるけど中には入れないから、いつもいっぱい沸かしておいて、で、それかかるだけにしといたらいいでしょ。そうしてるの行かない日は。中に入れないもの、深いから。昔のお湯場はね。お風呂

屋さんに行っても手持ってもらわないと、お風呂の中にはね。行かないのよ。だいたいもう、お湯をいっぱい沸かしておいて、それをだんだんだんだんかけてるだけですよ。またなくなったら上にお水たして中に入らないで、そうしてるんですよ。

Q：じゃー週2日のデイで入れるのは気持ち良いですね？

A：うん。でもそれが行かれなくなったでしょう。痴呆症の人をようけ取るみたい。

Q：ああそうなんですか

A：そりゃ考えてみたら、痴呆症の人は手がかかるもの。

Q：う～ん。

A：私やったらじっとしてゆっくりしとったらいけど、痴呆症の人はどこ行くか分からないし、誰かがついてないといけない人もあるしね。手がかかると思うんですよ、私。そういう人をようけとるようになったの。だから私みたいに足の悪い人はだんだん減ってから。

Q：うう～ん

2) 「75歳までお仕事」、でも年金は主人の遺族年金だけ—自分のと併給できない—

A：お仕事は75までしてたから、私。

Q：75まで !! すごいですね。

A：うん、75まで。だからもういつもね、あの、厚生年金やなんやらあるでしょう、主人が死んでもいつも自分が、主人は私と10違うてたから、10歳ほど違うてたからね。

Q：ああっ10歳年上の方なんですか。

A：それから私が、60…70のときに亡くなったのかな。わしが自分が死んでも自分の半分とお前の半分で十分やっていけるからって言ってたけど、両方取れないんですよ。片方しか。片方しか取れないの。

Q：へえ～両方は？

A：とれないの。架空申請とかは知らないよ。でも、とれないの。だから主人のほうだけで

Q：今はだんなさんの方だけ。

2) 子どもからの仕送り―「毎月ね。毎月5万円ずつくれるから。」

A：でもまあ娘と息子がちゃんとしてくれるからね。毎月ね。

Q：ああ～お子さんから。

A：毎月ね。毎月5万円ずつくれるから。

Q：いい人ですねえ。

A：ふふふ。それで

Q：お金には全然困ってない？

A：困ってないって言ったらおかしいけど、ほんと、ある意味…楽。楽って言ったらおかしいけどね。娘と息子さんがよくしてくれるから、幸せやなあと思うて。息子とこの、息子のお嫁さんもいい人なんですよ、それが。娘の主人もものすごいいい人なんですよ。みんな。息子の嫁さんの悪口言う人多いけど、私言うこと何にもないもん。うちがお母さんって言われるくらいやもの。そう思う私いつも。いいお嫁さんやなあと思うて二人。

3) デイサービスの楽しみなプログラム「カラオケ」

A：デイサービスがよく歌を歌うしね。カラオケ。

Q：ああ！

A：カラオケで歌うのが楽しみでね。デイサービスで。

Q：何歌われるんですか？

A：私はね、アザミのね、アザミの歌

Q：アザミの。

A：後は『娘よ』

Q：ああ。『娘よ』は知ってます

A：色々歌うけどそれよ。昔の歌しか知りませんよ。みなさん昔の人間ばかりやからね。あ、みんないてる人はね。だから月曜日と木曜日はだいたい。カラオケ好きな人はそこに集まってね。

(13) Mさん (91歳) の場合

Mさんは要支援2、デイサービスを毎週木曜日に利用している。90を超えてなお達者にひとりで暮らす高齢者だ。子どもは息子2人と娘が一人の3人。夫は平成2年(1990年)に亡くなった。18年間のひとり暮らしの生活だ。

91歳 女性 支援2 Mさん	
	月 火 水 木 金 土 日
7:00	
7:30	
8:00	
8:30	
9:00	
9:30	
10:00	
10:30	
11:00	
11:30	
12:00	
12:30	
13:00	
13:30	
14:00	
14:30	
15:00	
15:30	
16:00	
16:30	
17:00	
17:30	
18:00	
18:30	
19:00	
19:30	
20:00	
20:30	
21:00	
	配 食 なし
	デイサービス なし
	ヘルパー なし
	訪問看護 なし

1) 食事は全部自分がこなす

Q：食事とかも全部自炊…

A：そうそうそう。だからね、煮たりもするし、包丁もね。

Q：そうなんですネ。

Q：じゃあヘルパーさんは利用してないんですか？

A：うん。いらないもん。私そういう人いらない。なくてもできるし。

2) デイサービスの利用

Q：デイサービスは週に何回行かれてるんですか？

A：私は週に1回

Q：じゃあ週に1回デイサービスに行って、あとはカラオケ行ったり…

A：そんな無駄なお金は使わない。

3) 毎日の暮らしの様子―「9時半ぐらいにはふとん入って、6時半に目覚めてね」

Q：毎日何時ぐらいに食べてはるんですか？

A：え～だから朝ね、あの…9時ごろですわね。で、お昼は…12時ちょっと過ぎるくらいかな。夕方は6時ちょっと過ぎ。まあ間にねぶどうとかバナナをちょっと食べますよ。もうその程度で…どないやろ…どれだけ食べたらいかんていう約束はないけど、自分でね…

Q：寝るのは何時ぐらいですか？

A：夜はね、9時半ぐらいにはふとん入って、朝は6時半かな。6時半に目覚めてね。

Q：じゃあ毎日それを…

A：そうそうそう。その時間になったら目覚めて、その時間になったら食べて、それで規則正しいですわ。やっぱ老人会のお誕生会とかね、兄妹のみんなともあだこうだってね、相談にものれへんからね。

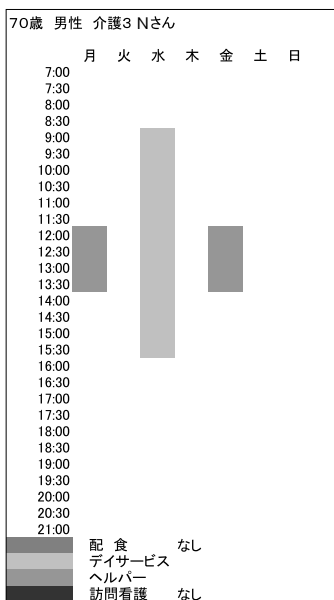
4) デイサービス

A：(デイサービスの話) 若い子ら、こう髪でもキレイなあって思ってたね。手も足も洗いましょってね、そりゃもう至れり尽くせり。で、お風呂でも前は自分で洗えるしね。風呂から出たらお茶飲ましてね、で、美容師さんらがいはってね、ボランティアで、その人ら頭(髪の毛をカット?)しはるでしょ。気持ちいいやん、寝れそうやって。で、しばらくしたらごはんが出るの。お魚骨ないの。ご飯でもやわらかいの。で、私はご飯とおかずとあるけども、ご飯だけは半分で。おかずは、まあまあまあおかずはきっちりくれはるから。これおかずなかったら私、気おかしなるよ。まあ私いらんけど、みんながね、「なんでMさんに出さないの？」って言いはるからね、「いや、私

これが慣れてる」言って。私はね、もっとひどい目に遭ってるんよ。それこそ、あんた、ひどいとこあんねんよ。これはもうね、生かしてやる、食べさしてやるって…どろどろの…。献立にはね、すき焼きとんや書いてあんねん。違うの。もうどろどろのなんやわからんね、こんな色のんおわんにのってあんねん。それとな、お漬物…なにかわけわからへん。それ食べてみたらまずい。そんなでもね、目の見えない人も誰も食べさせてくれへんの。手出して、こうして誰も食べさせてくれへんから、こうしてね、目見えへんから広げはんねん、お茶碗からこうして。あれあの姿見てね、こんなならんとこな、こんなならんとこなって思っ。私だけね、特別に動いたん(?)。そしたら私はまともやからな、出て行けんの。他の人は出されへん。あんなんでも生きてんのかしらって思っ。ね。

(14) Nさん (70歳) の場合

Nさんは介護度3の男性。16人中3人の男性のうちの1人だ。利用している介護サービスは、デイサービスが週1回(水)、ホームヘルプサービスが週2回(月12:00~13:30、金12:00~13:30)で、生活保護を受給してひとり暮らししている。



1) 労働争議と生活保護

A: ほかの人と違ってな、わしは若いときに大闘争やってな、

Q: 大闘争?

A: あ、あれや、経営者とな、労働争議やってな、

Q: ああ、なるほど。

A: 何年間とやったわけやな。そんな中でお金ないやろ? ほって最低の生活でな、わしの場合、あれや、生活保護受けてやってたわけやからな。そのときから生活保護受け取るからな。ずっととちゃうけどな。あ、貧乏には慣れとるんや。せやからな、今、生活保護に戻ったけども、

2) 日常生活

Q: ご飯とかは?

A: 自分で作とんねん。足痛いの無理してな。自分で作ってるねん。ほってあ、重たいやろ? お米やとかな、重たい猫のえさやとか、せやからみなこうてきてもらってるね

ん。ヘルパーさんがなあ、週2回来てくれてるねん。月曜日と金曜日、買い物とお掃除と。うちの家はもうあれや、着るもんはなあいっぱいあるねん。やけどみんな古いもんや。そやからや、みんなそれを整理してもらって着られるものと着られへんものと足るものと足らんものと整理してもらってる最中なんや。ほって足らんもんはY(店名)へ買いに行こかという話になってるんや。そこまで行くのがかなんや。足が痛いから。

3) 外出は「墓参り」

Q：今、外とか出られますか？

A：外へ出るときはなあ、あの、墓参りやろ。墓参り行ったことないけどな。あの、入院してて退院してからはな。なんでもか言ったら東大谷やろ、近所やけどな、坂があるやろ？で、道がだいぶあるやろ、せやから今のところは行かへんねん。これは行かなあかんねん、どうしてもな。

(15) Oさん (92歳) の場合

Oさんは今回の調査対象者の中で最も高齢で介護度も4と高い方だ。利用している介護サービスはデイサービスが週2回(火、土)、ホームヘルプサービスが毎日2回(月10:00~12:00、15:30~17:00、火8:30~9:30、16:30~18:00、水10:30~12:30、17:00~18:30、木10:00~12:00、17:00~18:30、金9:00~10:30、15:30~17:30、土8:00~9:00、16:00~17:30、日10:00~12:00、15:30~17:00)となっている。他に週3回(火、水、土)在宅マッサージも利用している。インタビューもホームヘルパーの訪問時であった。今の住居の暮らし辛さを訴え電動車いすが作動出来る自由度の高いバリアフリーな住宅への転居を強く望んでいた。「ひとりで暮らす介護度4の高齢者」の暮らしぶりを聞いてみた。

1) デイサービス

A：あのね、1週間に2回デイサービス。うん。火曜と土曜。

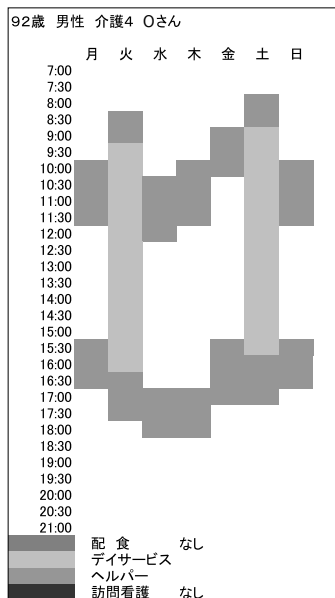
Q：買い物ですか。ああなるほど。……どうですか？デイサービスとかは？使い、行き心地とか…。

A：うーん、デイサービスあんまりたいしたことないわな。

Q：ああそうですか。どういったことされるんですか？デイサービス行くと。

A：相手におそわれ、こんな状態やからね。行

ったらもう車いすにジーっと座っとらなあかん、でその状態で一日過ごすから、かえ



ってしんどい。うーん。

Q：お風呂とかも入られるんですか、デイサービスで。

A：もちろん、まあ目的はお風呂の…

Q：ああそうですか。お風呂はなかなかいいもんですか？気持ちいい？

A：うん、あのねー。設備は、あー、ちょっと変わってるわな。個室になって、ほて1人だけが入れるだけのね、浴槽で、ぐーっとベットのまま、そのまま入れるやつや…。

Q：なるほど。いいですね、じゃあ。わりと設備が整ってる感じですね。

A：まあ設備っていったらそれぐらいのものやね。

Q：はーそうですか。

A：ほて向こう行ったら食事。昼食やね。

Q：じゃあ食事どうですか？

A：まあまあ…。

Q：まあまあ…。

Q：(笑)

Q：じゃあ大体デイにはこう、お風呂入って、入りに行くと感じですか？

A：そうそうそう。週2回ね。火曜日と土曜日か…。それも限られた時間に行って、限られた時間に帰ってくるわけよ。朝がね、向こうに着くのが10時ごろかな。帰ってくるのが4時半。まあちょっと行き帰りは不規則やけども、大体時間的にはそういうような…朝出て、夕方4時半ごろにはこっち帰ってくると。それも、えーっと火曜と土曜日。週2回ね。それは決まってるやと週…

2) ヘルパーのお仕事

Q：で、ヘルパーさんが今来てらっしゃいますよね。週に何回？

A：いやいや週に…毎日ねえ。

Q：毎日？

A：昼と夕方と。

Q：昼と夕方ね。

A：一日に2時間3時間、2時間半ぐらいやね。1日に、小分けして。

Q：なるほど。

A：で、身の回りの世話してくれるわけよ。

Q：料理とか…掃除とかですね。

A：うん。まあ結局、必要な物をね、買ってきてもらう。

3) デイサービスが唯一の外出の機会

Q：家の外に出られるときっていうのは、もうデイぐらいですか？デイサービス…

A：そうやね、私が自由に出入れるんやったら出るんやけど、こんな状態で出られへんから。うん。ほんで今ね、申し込んでるわけですよ。家のね、申し込みを。

Q：ふーん…家の申し込み？

A：ほんでそこいったら車いすで自由に出入りができるっていうぐらいの程度のね。

Q：ああーはいはいはいはい。なるほど。

Q：少し広くなるんですか？

A：今ではひとりでどうにもならへんからね。仮にヘルパーさんがおったかで…この出入りがね、段差があるんですよこは。

4) 一番の困りごと

Q：その一困り事というと、どういうことがありますか？こう一日の間にこういうときに困るなあという…

A：それがね、一応、体が不自由やから思うた通りにはできないわけよ。だから何事もね、もう自分で我慢するしかないわけよ。健康な人やったらこんなことできへんわ。うん。

Q：例えばこう、どういうことをしようと思う、思ったりするんですか？こういう…こういうことをしようと思ってるのになかなかできない…。

A：ほうやね。まずね、座ってどうのこうのっていうようなことはできないわけよ。だから、この椅子はね、これトイレですよ。これね、ポータブルになってるわけ。そんなにね、どこにも出られへんし、立って行くこともできへんし。口だけはぺらぺらしゃべってるけども、行動はできないわけよ。だからね、今でもね、あの一、これが(コンコンとゴミ箱を叩く音)ゴミ箱やけどね。これがここへ置いといて、いらんゴミをこっちへポット…。手、手の動く範囲内でやってるわけですよ。

Q：はあーそうですか。その一、家を次また新しくするということで、何か、できるならばちょっとふらっとねえ、誰かと一緒に外出とかも、したいなという思い？

A：そうそうそうそう。今ではそれができないわけよ。ここの建物そのものが…ね、まあ入ってこれたらよく分かったと思うけども、段があるでしょ？この…私があそこを歩いて単独でね、出入りができひんわけよ。一応車いすのね、この車いすは電動になってるのよ。うん。だから電動やからね、出入りはできるけども、ドアを開めたり開けたり、でき…自由にできひんからね。誰か人手がいるわけですよ。そうなるやとやっぱり、ヘルパーさんが昼と夕方に来るけども、時間的にね、限られた時間ですから…。そこに書いてないかな？ヘルパーさんが、えーとお昼と夕方2回…。昼は1時間かな、夕方1時間半かな、何かそんなような時間ですわ。昼はえーと、10時半から11…12時半ぐらいまでね。夕方は4時から4時半か…。1時間か1時間半ですわ。その間に何でもかんでも皆せないかん。せないかんてちゅうても自分がするんじゃない、ヘルパーさんがするんやけどね。今、ここにおったでしょ。あの人ヘルパーさん。毎日変わるからね。

5) 毎日変わるヘルパー—8人が交代で訪問

Q：ころころ変わるんですよね？何人ぐらいいらっしゃるんですか？

A：さあ…そこに書いてないですか？ドアに貼ってある…

Q：そこに表が…。そっちに表があります、ちょっといいですか？よーっ…（表を取る様子）。これですね。おー1、2、3、4、5、6…

Q：7・8!? 8人？

Q：8人？

Q：8人！

Q：8人、8人いらっしゃいますね。

6) 楽しみなことー「この場所で同じ場所で寝転んで、みてることは上か横しかあらへんわけや」

Q：Oさん、一週間で、何かこれを楽しみにしてるってことはありますか？

A：…え？

Q：一週間でこれは楽しみにしてるみたいなことがありますか？楽しみ。

A：一週間で？そやねえ、いま言うてるようにね、体の自由ができないのよ。それがねえ一番不自由やね。そして、一週間のうちに火・水・木…

ヘルパー：申し訳ない、ごめんねえ。すいません。（棚を開ける音とカチャカチャとお皿を取る音）

Q：あ、はい。

A：…2・3回、デイサービスか…まあそれだけやね。

Q：あーお風呂に入ってたやつですね？

A：そうそうそう…。

Q：こういう話相手みたいな人もね…なかなかないですよ。

A：ないですよ…。

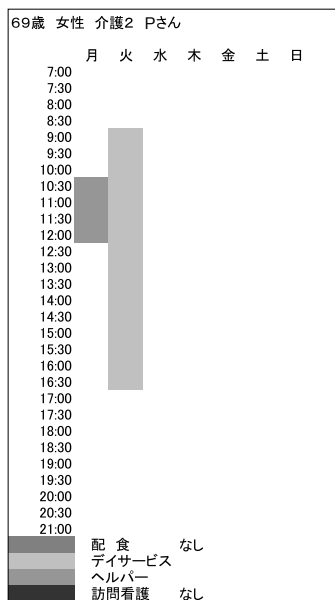
Q：なるほど…。じゃあ、まあ家変わって動けるようになったらね、何か変わるとねえ…。

A：そりゃ外観、外観見るだけでもね、違うのよ。こんなじーっと1日、この場所で同じ場所で寝転んで、みてることは上か横しかあらへんわけや。

(16) Pさん(69歳)の場合

Pさんは今回の調査対象者の女性の中では最も若い60代。介護度は2だ。利用しているのは、火曜日のデイサービスと月曜日（10：30～12：00）のホームヘルプサービスだけ。5～6年前に夫を亡くしてのひとり暮らしの不安から、「一人ってのはほんとに寂しいです」と施設入所が出来るよう施設増設について強く訴えていた。「ひとりで暮らす」「家族と暮らす」に加えて「みんなと暮らす」「施設で暮らす」という暮らし方への強い志向性に、今回の調査に携わった学生たちの驚きがあった。このインタビューにも施設を強く希望する高齢者への学生たちの戸惑いが表れている。近くに住む1人娘とは

頻繁に交流しており、孫娘が仕事帰りに泊まっていくこともあるという。「娘がそうさせたんやと思います。大丈夫やのにね」。



1) ひとり暮らしの不安と老人ホーム入所の希望

A：今一番私がまあ、一人で暮らしてるのに不安があるっていうのがね、やっぱりこう、なんかあったときにね、あの一、誰もいなかったら、どうしようもないから…。それが一番不安なことなんです。

Q：それはご自身のお体の事とかですかね？

A：そうです、体のことと、それと…やっぱり、先のことはねえ、言うてもしょうがないですけども、やっぱり、もうゆくゆく考えておかなあかんって、あとは、やっぱり自分が動けなくなったときにね、あの一、どういう手段をとったらいいか、やっぱり、私としたら娘いても、出来るだけ、あまり手をかけないで、自分で、まあ出来なくなったときには、なんかそういう施設にね、入りたいとは、思うんですけどね。ところが今、なかなか入れない状態でしょう？…で、言って有料のところは行けないし、お金がかかるから。やっぱり年金内で行けると

こて言うたら特養とか、そういうところになりますしね、老人ホームになりますし。そこは、まあ、なかなか皆さんに聞いてたら、なんか一、60人待ちとか80人待ちとか、なんか言われるから、なんで、そんなんなったら私いざ動けなくなったって入れへんやんとおもって。そのことが一番不安です。どうしたらいいのかなあと思って。で、こないだもケアマネさんに聞いたら、結局は家で、自宅でヘルパーさんを増やして、来てもらって、あの一、暮らすしかしょうがないみたいなことをね、言われたから…。そしたらヘルパーさんて時間がねえ、終わったら帰られますよね。24時間付いてくれるわけじゃないし。看護師さんでないし、まあやっぱりそれも不安やし、どういう風にしたら、そういうとこに入れるのかなと思ってね。やっぱり一番ん望むのは、そういう施設を増やしてほしいなって思うんです。

Q：じゃあもう施設、に入られるときはこの家を出られるって事ですけど、ここ…をその離れられることに対してなんかこう寂しいとかありますか？

A：そりゃもう愛着ありますしねえ、主人と長く暮らした家ですし、私としたら、それもう放しがたいんですけど、そうも言ってられませんのでね、そうなった時は。だから今は、今1人暮らしてるからそういうことはないんですけどゆくゆくはね、やっぱりここを出んとかかんいうことも考えてるんです。…うん、やっぱり施設に入ってしまう

たらここおいといてもねえ。まあもう、どうしようもないから…。

2) ひとり暮らしでも安心して暮らせる場所

Q：そうですね。…だからそういう方がね、集まれる場所とかがあったら…

A：そうなんです。だから、老人ホームが無理ならね、たっぱりそういう方たち、同じ…境遇のねえ、そういう一人て寂しいなっていう方ばかりがこう集まって、そういう所で暮らせる場所もあればいいとか、1…回テレビでねえ、やってたことがあるんですよあれは関東のほうやったと思うんですけども、あのグループ…ハウスって言って、皆さんがそういう、あの一出資金、のようなものを出し合って、そして、それでまかなっていくいうことでそういうところを作られてるところもあるみたいですけどね…でもそれはやっぱり私も行って見ないとわからないんやけども、まったく知らない人…まあそら何処でも、知らない人んとこ行かんならんのやけどね、京都から離れるっていうのも不安やし、んで、そういう内容なんかもね、いまいちはっきり…テレビだけやから、あんまり詳しいこと分らないんですけども、そういうこともやってはともあるみたいですけどねえ。それとやっぱり、こう、思うのは、どんどんどんどんこんだけマンション建つんやけども、果たして皆が皆ねえ、はいらはるかどうかせはわからへんのやけども、まあ、そういう、無駄な、所を、空いてる、空いて使われない、売れないまま放ってあるとも沢山あるて聞きますしね、もうそれだったらそういうところを、なんかそういうホームにねえ、していただけたらいいなって、思うんですよ私。そしたらねえ、皆さん困ってはる一人暮らしの人いっぱいはいりますよ、私なんかまだましですよ、ちょっとでも動けるから。でもやっぱり、ほんとに一人、全く一人ね、あの一、子どもさんもおられない、あの一、身内もねえ、遠いとか、そんなんで、まあ一人でおられる方もうほんま気の毒やと思うんですよ。そんな方が、やっぱり、そういうとこに入ったらねえ、賑やかで、一緒に暮らせるんならその方が幸せなんやろな…と思ってね。なんかそういうことが、なんか最近一、ねえ、どの人が総理大臣ならはっても一緒やし、世の中いっこも変わらへんし、ちっともねえ、よくならへんなあてもう、あきらめ半分で、誰がならはってもう一緒やわと思ってねえ、テレビ見てますけども…もうちょっとこう、ほんまに、年寄りが、高齢化社会なってますのでね、あまりにも年寄りが多いから仕方がないんでしょうけど、もうすこしやっぱりねえ、年寄りが暮らせる、暮らしやすい環境づくりになればねえ、いちばんいいなあと思うんですけどねえ。…なかなかそれは難しいことですね。

3) 最近の嬉しい話

A：最近はねえ、楽しく…ちょっと楽しみが増えたかなと思うのは、実は娘が離婚…しましてね、3年ほど前に。んで、それからもうしばらくは大変やったんですけども、まあ、娘もちょっと出会いがあって、良い方に、出会って、まあ再婚したんです。でそれで、あの、ちょっと娘も落ち着いて、その、今の旦那が、旦那さんが、よくしてくれるんですよ、私にも。